



JIC インフォメーション

第 210 号 2021 年 1 月 10 日

年 4 回 1・4・7・10 月の 10 日発行

1 部 500 円

発行所: JIC 国際親善交流センター 発行責任者: 伏田昌義

<http://www.jic-web.co.jp>

東京オフィス: 〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-14-8 YPC ビル 7F TEL: 03-3355-7294 jictokyo@jic-web.co.jp

大阪・ロシア留学デスク: 〒540-0032 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル 7F TEL: 06-6944-2341

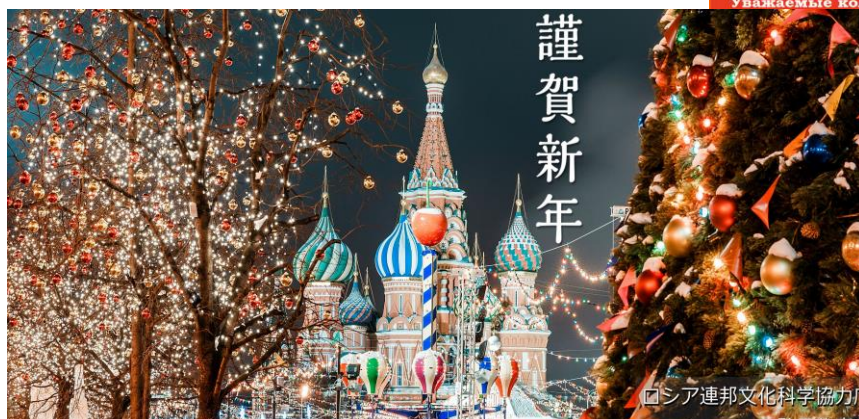
はりねずみのジェーニャ



あけましておめでとうございます

今年も ^{ジェーアイシー} JIC をよろしくお願いします!!

С Новым 2021-ым Годом!!



上、JIC の年賀カード
下、ロシア連邦文化科学
協力庁駐日代表部から届
いた新年カード

<http://www.jic-web.co.jp>

《JIC スタッフより新年のごあいさつ》

今年も JIC をよろしくお願い申し上げます。

テーマは「回復力」(Resilience)

各スタッフ、こんな時こそ元気に頑張ります！……………2-13P

JIC では、Jクラブ(JIC 友の会)会員を募集しています。
年 4 回の情報満載のインフォメーションをお届けします。



JICスタッフより新年のご挨拶

「回復力」Resilience

謹賀新年！ 本年も JIC をよろしくお願い申し上げます。

※1 月号恒例のスタッフ新年あいさつ。今年のテーマは、「回復力」Resilience です。

昨年 2020 年は世界と日本の歴史において、新しいウィルス感染症が人々の生活を一変させた「困難な年」として記憶されるでしょう。そしてその困難は新型コロナ発生から丸 1 年経った現在もまだ相変わらず続いています。政府は年明け早々の 1 月 7 日に東京、神奈川、埼玉、千葉の 1 都 3 県を対象に 1 か月間の緊急事態宣言を再び発しました。困難な 2 年目が始まろうとしています。

困難からの「回復力」をどこに求めるか。JIC スタッフがそれぞれ考えました。テーマを外れて書き綴った身近雑記のように見えて、意外とみんな「回復力」にこだわっているのは、それだけコロナの破壊力が大きかったせいでしょうか。スタッフのささやかな新年あいさつを今年もお楽しみください。

待たれる海外旅行の再開と ロシア電子ビザの全国化

杉浦 信也 (JIC 旅行センター)

ロシア政府がロシアへの外国人の入国制限を発令した昨年 3 月 18 日以来、早くも 10 ヶ月近くが経過しました。国際航空運送協会(IATA)は 2021 年の世界の航空需要は新型コロナウイルスの広がる前の 2019 年の半分程度に、また 19 年とほぼ同程度に回復するのは 2024 年になる見通しを発表しました。ワクチンの実用化と普及を前提としていますが、世界観光機関 (UNWTO) も海外旅行者の回復についてほぼ同様の予想をしています。

私たち JIC も 3 月からロシアへの渡航やインバウンド旅行が完全にストップして、営業時間の短縮やスタッフの在宅勤務の毎日が始まりました。半年以上のこの期間に自宅でのテレワーク、オンラインでの会議やウェビナーへの参加など、この事態にならなければ経験することはなかったであろうことを毎日のように体験してきました。また、留学チームはオンラインでの留学相談を開始し、昨年 12 月にはロシア留学セミナーを開催。モスクワのスタッフやペテルブルグ連絡員からの現地の新型コロナの状況や対策、ロシア留学についての説明などを行い、70 名以上の参加を得て盛況でした。

現状としては、ロシアを始めとする海外への渡航や日本への外国人の訪問の本格的再開には、海外からの帰国後 14 日間の待機要請や海外からの外国人に対する水際対策の実施などまだまだ壁が多く道のりは遠そうです。期待を込めて言えば今年 7 月くらいまでには徐々に海外渡航や日本への外国人の訪問も回復し始めていることと思いたい。しかし、私たち

がそうであったように多くの人々が、巣ごもり期間にオンラインでのコミュニケーションや映像体験を経験し、海外に行かなくても見たり、聞いたり、意思疎通をすることは難しくないということを実感してしまったのではないのでしょうか。再び海外への渡航が可能になった時、旅行者が旅することに何を求めるようになるか、再定義することを求められているように思えます。

一方、ロシアは今年 1 月 1 日からこれまでウラジオストクやサンクトペテルブルグなど一部の都市、しかも 1 都市への訪問しか認めていなかった電子ビザでの入国を全国化する予定です。この文章を書いている 12 月時点で電子ビザは一時停止していますが、すでに法案は署名されたので遅かれ早かれ再開されます。事前に電子ビザを取得すると 16 日間以内であればロシア国内の複数都市をどこでも旅行できるようになります。

シベリア鉄道の始発駅ウラジオストクから乗車しモスクワまで横断して日本へ帰国するといった旅行も可能になりロシア旅行の自由度は一気に高まります。自由度を増すロシア旅行の制度を利用して JIC として旅行や交流の拡大にいかに関与できるか、今しばらく続きそうな渡航制限の期間に準備していきたいと思います。



昨年実施予定だった土人形の産地アルハンゲリ斯克州カルゴポリへの旅を今年こそは実現したいと思います。興味あ

る方は以下のサイトをご覧ください。

<https://www.facebook.com/MuzejMasterovSevelevyhIKargopolskojIgruski/>

今できること

モロゾフ デニス(JIC 東京)

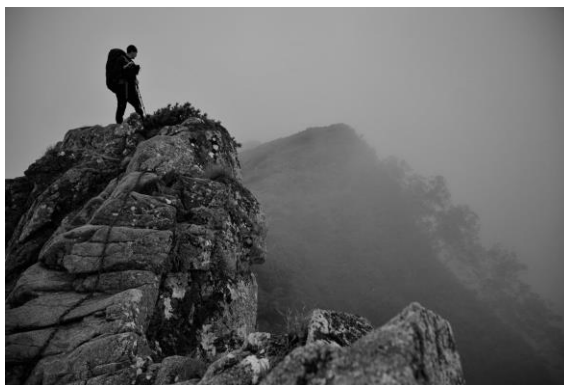
明けましておめでとうございます。

いよいよ新たな年の幕開けですね。長くて苦しかった 2020 年とようやくお別れです。

コロナ時代の到来が JIC を直撃してからおよそ 10 ヶ月経ちましたが、業務の本格的再開までの道のりはまだまだ遠いんです。旅行が大好きな人にとって、去年はまさに悪夢でした。いろんな旅行会社がオンラインツアーなどの試みを行いましたが、五感で感じる異国の空気、街中の音、エスニック料理の味覚、あの何とも表現し難い臨場感には到底及ぶ事はできませんでした。それどころか、オンラインツアーは旅行ロスを焚き付ける、拷問のように感じる人が少なからずいたのではないかと思います。

旅行のお手伝いを突然できなくなった私たち JIC の社員は正直、しばらく途方に暮れていました。会社が潰れてしまうのではないかと、これからどうしたらいいかと、見えない恐怖に怯え、悩む日々がとても長く感じられました。しかし、人間というのは実に不思議な生き物で、絶えず苦悩することはできないのです。しばらくすると新しい環境に慣れてしまいます。そして人生に 2 度と訪れないであろうこの「ロングバケーション」をいかに有効に、いかに楽しく過ごすかについて考えるようになります。私はまず、今までの暴飲暴食の生活を改め、本格的なランニングや人のいない近隣の山に登り、15 キロ以上のダイエットに成功しました。今までなかなか読めなかった本を読み、見られなかった映画をたくさん見ました。そして国内のコロナ状況に応じて、少しずつですが、旅行業務の再開に携わりました。日本在住のロシア人のために高尾山や山梨の昇仙峡、岩手の平泉などを見てまわる企画を実施して、徐々に旅行の醍醐味である人と人とのコミュニケーション、素晴らしい景色を見た時の感動の共有感を体験しました。

また、12 月にテレビ関係の仕事で福島震災地を訪れる機会があり、様々な人取材しました。今年で 10 周年を迎える東日本大震災を福島の住民は力強く乗り越えようとしており、とにかく前向きに生きていく彼らの姿に私は心底から感動しました。どんなに絶望的な状況でも、人はそれを乗り越えて、そして再生していく。もちろん、時間はかかります。一本調子で行かない時もあるでしょう。それでも再生は止まることはありません。旅行だってそうです。どんな形であれ、



旅行業界はいずれ生まれ変わり、さらに強くなります。それまでは自分でできる事をやり、知識を広げ、やがて訪れる旅行の新時代に備えていきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いします！

隔絶しよう。接触しよう。

岡本 健裕(JIC 東京)

人間は移動しなくていいのか。この一年間は何度もそんな問いを噛みしめてきました。旅行や留学の手配を仕事にしている身で、これを言ったらおしまいですが、それでも私は思います。人間は移動しなくてもいいんだと。

もう少し丁寧に言えば、人間は不要な移動をしなくてすむように進化しています。そう、これは進歩です。止まってるけど前進なんです。私達はもう移動しなくても働けるし、勉強できるし、人と会えるし、出逢えるのです。ばんざい。

そうして人間の移動がずいぶん減った今、何が起こるでしょうか。多分、そこらじゅうでローカルな文化の分岐が始まるはずなんです。

一年前の 1 月 8 日のことです。Skype を使った社内の会議で、東京の同僚が大阪事務所へ呼びかけました。

「松の内も終わり…」

実は大阪では松の内は 1 月 15 日までなので、まだ終わってないのです。と余計な口を挟んだところ、大阪は 15 日まで仕事しない文化なのか、と誤解されかけたので付け加えますが、そもそも松の内はお休みする期間のことではなくて、門松を立てておく期間です。多くの職場は三が日を過ぎたくらいから順次働き始めますので安心してください。ではどうして 1 月 15 日まで門松を立てておくのかというと、かつて用いた太陰太陽暦では 15 日は必ず満月だったからで、これを小正月といって…、長くなるのでこのへんでやめましょう。

私は私で、東京に 8 年ほど住んでいますが、こちらでは 1 月 7 日で松の内が明けのことを知らなかったのです。これは江戸幕府のお触れで始まった関東地方の新しい文化のようで

すね。(それでも 300 年以上経っていますが。)それだけでなく、私はずっと別々のものと認識していた仕事始め、



新宿通りで見られる江戸時代様式の門松

さらには七草粥を食べる行事までが、関東圏ではゆるくまとめて正月の終わりイベントとみなされているらしいと知って驚きました。いえむしろ、自分がそういう文化の存在を知らないまま生きてきたことの方に驚いたのです。

そんな私の勤務する東京本社周辺の新宿通りには、江戸時代様式の門松を立てるビルが何軒かあります。2 階まで届きそうな、七夕のような葉付きの笹が間口に立つのです。現代の都内では、他に日本橋界隈とか、限られた場所でしか見られない珍しいものだとか。これに気づいたのも最近です。

同じ日本国内の、正月という大きな祝日に関わる文化でさえこうです。まだまだ知らないことがたくさんある！

人間が移動しなくなると、こんな文化の分岐がより多く蓄積します。今、世界のあちこちに無数のローカルルールが新しく生まれていることでしょう。私はそれを歓迎します。世の中は多様な方が断然、面白いからです。

つい最近まで、人類は猛烈な勢いで移動していました。その恩恵で、現代の日常生活では、すぐ隣に様々な異なる文化が接するのが当たり前です。モスクワでも東京でも英語が通じます。それを「多様化」と呼ぶ文脈をしばしば目にしますが、本当でしょうか。いいえ、全地球的に色々なものが混ざり合うことで生まれる価値の究極形はたぶん、普遍的な人類の連帯のようなものになると思います。きっとそれは貴いものだけど、多様化とは違います。

私は世界が多様であってほしいのです。欲を言えば、人類の連帯もほしいですが、何よりもまず、世界はローカルな多様性にあふれていてほしい。だから、違うもの、新しいものが増えるまで「しばらくは」、人間はそんなに移動しなくても構わないと思うのです。

大丈夫、分岐した文化の隔たりが十分に地に満ちたとき、人類は再び経験するはずです。黒船を見たときの衝撃を。ベルリンの壁を崩したときの熱狂を。そうなったらもう止まりません。それが、回復力です。人間はこれからも本能的にこの隔絶と接触のサイクルを繰り返すのではないかしら。

問題はそのインパクト発生まで JIC がもつかどうかですが、ロシア留学を経験するとなぜか、どうにかなるわい、という気分になってしまうんですよ。

お散歩で見えるもの

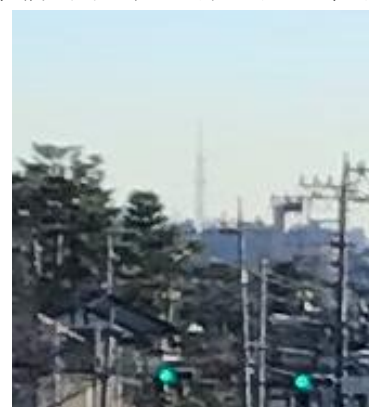
百瀬 智佳子(JIC 東京)

新年おめでとうございます。去年は皆様とお話をする機会が少なく寂しかったです。今年こそは楽しいご旅行の相談をお受けできるよう願っています。

そんな状況が長引くなか、遠出が出来ずに散歩ばかりで自宅界隈に詳しくなった、という方も多いのではないのでしょうか。私も大いに散歩をしました。私の居住地は都心から電車で西に 30 分ほどの緑の多い地域です。中でも大きな公園は車道で南北に分かれており、車道の上には幅広の歩道橋があります。実はこの歩道橋、橋の真ん中から東を臨むと、車道のずっとずっと先に、

スカイツリーが見えます。その距離、30km 以上。うちの近くにツリー関係の偉い方でもお住まいかしら、それで見える場所に建てたのかしら（そんなわけないけど）と思ってしまうくらい、うまい具合に景色にはまります。

このスカイツリー、実



は以前にはほとんど見えませんでした。よほど天氣が良く空気が澄んでいけば棒のように見えるけれど、少しでも曇ると姿を消してしまう。一秒ごとに光る時計光がかろうじて見え

るくらいの日も多かったのです。

ところが昨年。まさに 4 月頃から夏を過ぎてもずっと、そして今でも、とてもよく見えるようになりました。季節や天氣により多少違いますが、よほどの曇り空でなければ塔の形が見えます。空気がきれいになったようなのです。原因のひとつには、排気ガスの減少があると思います。電気自動車も増えてはいますが、何より車自体が減ったのではないのでしょうか。在宅勤務が増えて通勤車が減った。対面営業が減って営業車が減った。ほかにもあるかもしれません。ならばやがて事態が落ち着いた時にはまた車が増え、スカイツリーもまたいつか、見えなくなるのでしょうか。

けれども、勤務形態も営業方法も以前通りに完全に戻ることはないでしょう。コロナ下で仕方なく、から状況は変わり、より積極的に、柔軟に効率化を進めるという意味で、もはや元通りにはなりません。社会のたくましく不可逆的な流れにより、スカイツリーは今後もずっと姿を見せ続けてくれる気がしています。散歩で目にする一コマの風景からも考えさせられる、そんな一年でした。

「我が家の食卓」

神保 泰興 (JIC 東京)



あけましておめでとうございます。
コロナ禍の中、昨年3月から、JICでも本格的なテレワークが始まり、私もそれ以来、出社は月1~2回だけになりました。1日の多くの時間を自宅のパソコンに向かう毎日になりましたが、ここで我が家では育ち盛りの男の子たち3人と共に、文字通り「食べていくことへの危機」が発生しました。ふところ事情というわけではありません。私が出勤しなくなったのと入れ替わりのように、医療従事者であるママがすっかり出ずっぱりになってしまったのです。特に4月、5月の緊急事態宣言が発出された期間は、小中学校も休校になり、毎日の3食をどう用意するかがとても大きな課題になりました。もともと食べるのが大好きで、これまでもよく気晴らしに料理をしたり、お昼はできるだけ弁当を作って持っていくようにしたりはしていましたが、毎日3食を用意するという事はこれまで経験したことのないような大きな負担となりました。まず私が現在作ることのできる料理のメニューをすべて書き出し、キッチンの冷蔵庫のドアに貼りました。基本は在宅とはいえ仕事はありますし、他の用事・家事もたくさんこなさねばなりませんので、いかに要領よく時短で調理できるか、工夫を積み重ねていきました。ネットで引っ張り出したレシピに基づいて、たまたま一人の時に実験してみるなどして、書き出したメニューの数も徐々に増えていきました。料理法やコツだけでなく、近隣のどのスーパーは何が安いとかいった経験も徐々に磨かれていきました。ついでに申し上げると、デスクワーク続きによる運動不足の解消を兼ねて、半径3キロくらいまでのスーパーはできるだけ歩いて通うようにもしました。結果、現在では、1か月間、お昼と夜はすべて違う料理を出せるまでになりました。私が作ると味濃め、量多めになるせいか、子供たちの評判も上々で、「ずっとこのまま父ちゃんが料理を作り続けてくれるといいのに」とまで言っています。言うまでもありませんが、自炊はお財布にも優しく、我が家のように家族が多いと、昼・夜のメニューでも材料費は1食当たり平均200円程度、300円を超えることはめったにありません。このコロナ禍は、我が家の食卓事情に限って言えば、どうやらプラスに働いたようです。この状況がいつまで続くのか、心配ばかりしていると本当に暗澹たる気持ちになりますが、今の状況を工夫して楽しみながら、次なるステップに向けて力を蓄え、準備を怠らずに進めてまいりたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願い致します。

しなやかな強さ

佐藤 早苗 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

今回のお題である「回復力」(Resilience レジリエンス)には、外的な衝撃にも、ポキッと折れることなく、立ち直ることのできる「しなやかな強さ」という意味があるそうです。

昨年は世界中で今まで経験したことのない状況に様変わりしました。

- ① 海外旅行に行けない
- ② ライブ、コンサートがない
- ③ カラオケはNG

私の3大趣味とも言えるこの3つが生活から消えてしまったのです。ある日突然、「あなたは明日からこの3つを楽しむことができなくなります」と言われたら、きっと大きな打撃を受けていたことでしょう。ただ幸いなことに、そこに至るまでの変化のカーブがなだらかだったため、特に問題なくこの状況を受け入れている

自分がいました。

4月からは会社の部分休業&在宅勤務により、大幅に自宅にいる時間が増えました。専業主婦になった気分料理やお菓子作りに精を出したり、今まであまりしなかった読書をしたり。6月からは興味はあったけどなかなか始められなかったフリマアプリにもチャレ



ンジしました。断捨離とお小遣い稼ぎが同時に出来る楽しさ!!

小・中学生の頃に集めていた海外の古切手がすぐに売れたのは意外でした。何でもデコパージュやコラージュという、手作り作品の素材に使うそうです。この話を友人にしたところ、彼女が捨てるに捨てられずに持っていた、大量の古切手を委託出品することになりました(笑)。ステイホーム時間がなかったら、きっと始めることはなかったでしょう。(恐らく定年後までは!!)

今後世界がどのように変わっていくのか、予測はできません。現に1年前、誰がこのような状況を想像できたでしょうか。どんな状況にも柔軟に対応できる、心身の「しなやかな強さ」。私はこれからもそれを持つことを目標としたいと思います。

最後になりましたが、今年が皆様にとってよい方向に進む年になりますように。

自由時間との対峙

小西 章子 (JIC 大阪)

昨年の年頭は、10 年後を想像して呑気なご挨拶を書きましたが、まさか 1 年後がこんな風になっているとは誰が予想したことでしょう。今では 1 年先、1 か月先すらともに想像できない状態ですね。得体の知れないウィルスの恐怖が世界中に広がり、それでも春先には「秋頃にはなんとか回復」と思っていたものが、気づけばもうすぐ 1 年。まだ感染の波は拡大傾向にあり、もうしばらくは先の見えない日々が続くように思います。

JIC を含め旅行や留学を取り扱う業界にとって、2020 年が苦しい 1 年になったことは間違いありませんが、唯一良かったと思うのは、社会人になってからほとんど取れなかった自分の自由な時間を作れたことです。かといって、その時間を大好きな旅行に充てることはもちろんできなかったのですが、在宅勤務により通勤時間がなくなっただけでも毎日 2 時間！これまで自分のスキルをほとんどアップデートすることなく、毎日仕事と家のアレコレでいっぱい、いっぱいだと言いつつ、二言目には「時間がない」「1 日 30 時間ほしい」だった私にとっては思わぬプレゼントでした。

最初は時間があることに戸惑いましたが、だらだら過ごすことが 1 日で苦痛になり、何か有意義なことに時間を使いたいといういろいろトライしました。

春には、友人と協力して子供用のマスクを作り学校に寄付したり、学校再開後は娘の通う小学校のトイレ掃除と除菌作業のボランティアを実施したり。困難な時だからこそ誰かのために何かをしたいという気持ちを持った人が周りにたくさんいることをとても幸せに感じました。夏以降は、想像以上にコロナの影響が長引く様相となったため、これまでしたくてもなかなかできなかった勉強を始めました。内容は仕事と直結することあれば全く関係ないことまで様々ですが、娘が宿題をしている横で一緒に机に向かうのは



学校に寄付した子供用マスク

娘が宿題をしている横で一緒に机に向かうのは

とても新鮮でした。娘が私の勉強内容に興味を持ち、内容を説明するうちに覚えてしまい（悲しい脳年齢の違い・・・）、間違えると鋭いツッコミが入るまでになりました。ほどよいプレッシャーになったかな、と思います。

学びたいことが際限なく出てくるため時間がまだまだほしいと思う面はあるのですが、何よりもまずは新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、以前のようにロシア旅行や留学ができる日が一日も早く訪れてほしいと願います。今年が皆様にとって良い年となりますように。



撮影地:アメリカ

手荒れと足の小指が

金井 義彦 (JIC 東京)

テーブルや扉やどこかの角に足の小指をよくぶつける。しょっちゅう強くぶつける。そのため爪の下で出血が起こり、血豆のようになってしまって小指の爪は両足とも黒い。気がつけばもう数年間この黒い足小指と付き合っている。足の小指を角にぶつけるというのはよく耳にする話なのでみんなも黒い小指と共に生きているのかと思いきや、そんな話は聞いたことがない。オレはどれだけ強くぶつけているのか。オレは裸足でどれだけ勢いよく歩いているのか。何をそんなに急いでいるのだオレ。オレは家の中で走っているのか？ちなみに最近では小指だけでなく親指側もぶつけている。

昨年からは在宅勤務が始まり、生活スタイルが大きく変わった。例えば水回りに立つ時間と頻度が増えた。ボルシチ、ドラニキ、毛皮のコートを着たニシンを作ったり。そして寒い季節がやってくる。知らない内に両手のいろいろな指や拳のでっぱりや指の股から血が出ている。切れたりひび割れたりして何か所も。バンソウコウを貼っても水仕事で濡れてしまうから何度も貼り直す。昔の自分の身体を思い返してみると、

この程度の傷が治るのにこんなに時間がかかっていたらどうか。回復力があまりにも弱くなっていると思う。痛みはしばらく続き、そろそろこの指が治ったな、と思ったら違う所が切れている。

ところで。部屋を片付けていたら、いいものをみつけた。昨年搭乗したモスクワから成田のアエロフロート便の機内アメニティの残り。その中にハンドクリームが入っていた。飛行機に乗って旅をしているような気分になりながら、そのハンドクリームをこまめに塗っていると手の傷が癒えていく。なるほど。クリームの効果はあった。

この冬が始まった頃のある日。ぽろっと右の足小指の黒い爪が取れて落ちた。取れた指の所にはすでにきれいな爪がしっかりと生えている。見た目にはわからなかったが、黒い血の塊のような爪の下で、次の新しい爪が成長していたということか。ずいぶんと長い時間がかかったけれども、ちゃんと治るんだ。

「新しい歴史」

キリチェンコ オリガ
(JIC 東京)



あけましておめでとうございます。皆さんの幸福をいつもお祈り申し上げます。さて、人々は何千年前も、何百年前も、今も、病気になります。どの時代にも様々な感染症がありました。14 世紀のペスト、15 世紀の梅毒、19 世紀の発疹チフスなど、人類は本当に様々な感染症ウイルスと戦い、その戦いに勝ってきました。人々はその戦いの中で何度も絶望を迎えたことでしょう。しかし、その絶望を乗り越えて自分たちが強くなったことを確信していき、いつしか人類は自分たちが最強だと思ふようになりました。

人類がそうして余裕を持て余している時に、人類の新たな歴史となる「新型コロナウイルス感染症」がやってきました。各国では様々な対策が行われました。各国政府は感染症を止めようと一生懸命でした。その中で国民は、政府に従う人、自分たちの権利を訴える人、様々な人々がいました。人類社会が発展したならではの問題が沢山起きました。同時に、この新型コロナにより、各国の医療機関の発達度が測れたと思います。

日本では、常にマスクをつけている人が多く、政府に反対する人も少なく、医療が他国以上に進歩しているため、死者・感染者の数は他国と比べればましな方だと言えるでしょう。しかし、私たちはここで気を緩めてはなりません。感染者数が増えています。年始年末を迎え、沢山のイベントがあり、

友人と集まったり、祝ったりと、様々な人と接する機会が増えます。それでも私たちは最低限の規則を守り、できるだけ自粛をし、自分も相手も感染させないようにして行かなければなりません。

私たちに今求められるのは、「忍耐力」と、「相手を思いやる気持ち」です。忍耐力は、この新型コロナが収まるまで自粛をしたり、新しい生活様式に耐えることです。相手を思いやる気持ちは、自分が良くても相手は感染させる訳には行かないと思える心です。そして、もうひとつ大事となってくるのが「回復力」です。どの時代でも、どんな感染症が起きても、それは必ず収まり、人々は再び元の生活に戻り、さらに社会を改善発展させてきました。

新型コロナもいつかは必ず収まります。それが収まった時に、私たちがどれだけ早く元の生活に戻れて、社会を立て直せるかが重要になってきます。これから先、「忍耐力」「相手を思いやる気持ち」「回復力」この 3 つを意識して、みんなで力を合わせて、人類の新しい歴史を刻んで行きましょう。

いつもと違う日々

五十嵐 真夕 (JIC 東京)

新年おめでとうございます。大混乱の 2020 年があったという間に過ぎ去り、2021 年がやってきました。コロナ禍により大打撃を受けた弊社は在宅勤務がメインの働き方となり、「さあこれからだ！」と身が引き締まる春もなく、「逃げてしまいたい」と思うほど忙しい夏もなく、繁忙期が過ぎ去って心がほっとする秋もなく…。季節感もないままに新年を迎えました。

わが社はこのままどうなるのかな、と不安に思う気持ちはもちろんありますが、個人的には特に鬱々とすることもなく昨年的一年間を過ごせたように思います。

航空券の発券期限やお客様への最終渡航書類の発送期日など、比較的時間に追われることの多い旅行会社の仕事ですが、一昨年までは職場にいる時間以外でも常に時間に追われる生活を送っていました。朝はだいたい何時何分頃までに洗濯物を干して、朝ご飯を準備して、この時間には家を出て、定時ぴったりに職場を出て、必ず何時何分発の電車に乗って、何時までに子供たちを迎えに行つて、22 時になる前には必ず子供たちを寝かせて、洗濯物は朝 5 時までに洗い終わるように洗濯機をセットして…。ここ 6 年ほどはほとんど毎日時間と戦っていたような感覚です。

ところが昨年は在宅時間が増えたことで時間と戦う必要が全くなくなりました。朝もゆったり、始業時間までに洗濯物もばっちり済ませて、スーパーへの買い出しもできる。子供たちを児童クラブに行かせずに、学校からまっすぐ帰って来

させられる。そして家で出迎えてあげられる。今までは子供たちに家事の邪魔をされないようにゲームをやらせて黙らせていた私が、子供たちと一緒にゲームを楽しむようになり...そしてここぞとばかりに小学校のPTA役員に立候補し(〇年間に〇回はPTAに参加するというノルマがあります)、小学校のボランティア活動にも積極的に参加!



それ以外では、国家資格の勉強をみっちりやり、総合旅行業務取扱管理者試験に合格。スキマ時間でのちょっとした勉強や縄跳びも日課にし、スキルアップ&体力づくり。先日は夜中に家の外でぼーっと空を見上げ、流星群を待ってみたりもしました。こんなこと、毎朝5時過ぎには起きなければいけなかった一昨年までの私には考えられません...

今やスタンダードとなったリモート飲み会も何度か経験し、比較的近所の友人とはもちろん、ロンドンやロサンゼルスに住む友達との同窓会も楽しみました。今までだって無料で話せるツールはあったのに、それを使って同窓会をしようだなんて、この状況にならなければ誰も言い出さなかったと思います。

いろいろと書きましたが、遠出や旅行をしなくても、昔からの友達に直接会えなくても、意外と楽しかった、充実していたと思えるのは、昨年がいつもと違う日々で新鮮だったからです。

今年は不安な状況が解消され、夏には海外旅行が復活しますように。早くお客様のご旅行のお手伝いができますように。祈っています(写真は昨年の誕生日に長男が撮ってくれた1枚です)。

回復力を助けるもの

小原 浩子(JIC 大阪)

少し長くなるが、私の息子のことを書こうと思う。息子は現在中学3年生だが、中学2年生の時にかなり学校の授業についていけなくなっていた。様子がおかしいことはなんとなくわかっていたのだが、何が原因でそうなったのか、私にはまったくわからなかった。簡単に部活(陸上部)を休んだり、

学校に行きたくないと言ったり、無気力な様子ではあったが、この年頃の男子あるあるで学校のことを何も話さない。2学期の期末テストの結果を見てかなり成績が悪いことはよくわかったが、それを指摘したところで彼が何かを伝えてくれるわけもなく、モヤモヤした気持ちのまま担任の先生と彼と3人での学期末懇談となった。

担任の先生は1年生の時から2年続けて担任で、「君はまずは体を動かした方がいいから」と、彼に2年生から陸上部入りを勧めてくれた。息子のことを気にかけてくれていることが今までの懇談で私にもよくわかっていた。

先生はまず初めに彼に「歯医者に行って部活を休んだけど、歯はもう大丈夫か?」と聞いてくれたのだが、彼は歯医者には



京都・伏見稲荷大社にて

は行っておらず、嘘について部活を休んでいたことがそこで明らかになった。成績の話になり、授業についていけないか聞かれた彼はついに、教室での授業が全くわからなくなっていることを認め、泣いたのだった。体調を崩して休んでいた間に授業が進んでしまい、わからなくなっていたのが原因だった。最初に先生は「わからない授業を聞いていることは、

本当につらかったと思う」と言い、「君が授業を理解できていないであろうことは分かっていたけれど、先生は君がどうするのか見ていたよ。もし授業についていけないと分かっているなら、君はもう大人なのだから自分から質問に行き、自分で分かろうとしないといけない。先生は質問に来てくれたらいくらでも助けることができるのだから、質問に来なさい。これから一緒にどうしたらいいか考えよう」と伝え、これから彼のやるべきことを様々にアドバイスしてくれたのだった。

さて1年後の現在、息子はなんとか立ち直り、普通に学校に通い、部活にも主体的に参加するようになった。彼が自分の状態を認識し、解決したいと願ったからこそ今の姿である。ただ、彼をきちんと見守りアドバイスをくれた先生がいなければ、多分もう少し長い間、自分の中で苦しむことになったのではないかと思う。

乗り越えるべき壁にぶつかった時、見守ってくれる人がいることがどれだけ自分の力になるか私は知っているし、そんな人がいると思えるのは幸せなことだ。私自身もあの先生のように、いつか誰かのレジリエンス(回復力)の助けになることができればと心から思う。



国内の素晴らしい所にも目を向けました

チスティリーナ イリーナ (JIC モスクワ)

新年あけましておめでとうございます。今年も JIC をよろしくお願ひ致します。

皆さんの 2020 年どんな年でしたか？ 世界中に 2020 年は「新型コロナウイルスの年」と記憶されているでしょう。「新型コロナはロシアまで拡大しない。拡大しても、それほど大変にならない」と考えたロシア人が多かったのですが、新型コロナ感染防止のため昨年 3 月末からロシアでロックダウンが実施されました。自己隔離措置は 4 月 30 日までの予定でしたが、何回も延長されて 6 月 9 日にやっと解除されました。その日から自由に移動できるようになりました。モスクワの夏は雨が少なくて天気のよい日が多いですから、コロナ・ストレスから逃れるために野外活動を探しました。

最近、ロシアで SUP (サップ) というアクティビティが人気です。サップというのはスタンドアップパドルのことです。ハワイのワイキキで 1960 年代に生まれたスポーツです。サップは年齢や体力に関係なく楽しめます。ボードに立ったり座ったりしてパドルで水の上を進みます。サップボードはサーフィンボードより長く幅が広いので、バランスをとるのが簡単です。初めての人でも難しくありません。モスクワ州の Tarbushevo 村でサップを初体験してきました。ボードに乗ってオカ川を漕いで行きました。6 時間のコースでした。流れは強くなかったし、向かい風で、かなり簡単ルートだったので、魅力的な景色を楽しみながらリラックスできました。途中で一度休憩しました。おいしいバーベキューを食べ、同じグループの人とおしゃべりして、写真を撮ったりして休憩時間を過ごしました。サップはモスクワ市内でも可能です。モスクワの北西部にある Serebryany Bor で新鮮な松の空気とウォーターアクティビティを楽しむことができます。休日の朝にボードの上でヨガの練習が行われます。サップの習得は簡単なので、アクティビティが好きな方は是非やってみて

ください。

2021 年に海外旅行に行ける日が来ることを祈ります。皆様は安全・安心にロシアへの旅行を楽しむことができると期待しております。コロナに負けない気持ちで頑張りましょう！

「ダーチャ」

荒川 好子 (JIC ペテルブルグ)

明けましておめでとうございます。

2020 年は大混乱の 1 年でしたね。3 月半ばに、モスクワで理由不明の宿泊拒否に遭い、暗いモスクワの夜道を歩きました。今思うと、あれがコロナを実感した最初の出来事でした。

コロナのせいで行動が制限されたりしましたが、そのおかげで 2020 年はロシアのダーチャ生活を満喫できました。ボログダ州の小さな村で過ごしたのですが、ロシアのおばあちゃんたちがダーチャ生活を最高の贅沢だと言う気持ちがちょっとわかったような気がします。自分の健康管理もろくにできず、動物や植物の世話も苦手な私が、ダーチャの裏の広～い野原に小さい畑を耕して野菜を植えたりしました。こんな私でも毎日の食事でちょっとずつ食べるぐらいのえんどう豆やピーズが採れて、何とも言えない充実感を味わいました。

自然って、すごいですね。雪が解け、枯れ木や枯草が緑になって春の花が咲き、それが散ると夏の花が咲きました。今はまた一面銀世界です。そして、コロナなんかなかったみたいにもまた 2021 年も花が咲き、白夜になるんですね。



2021 年も健康に気をつけて、小さな満足や小さな感動を拾い集める年にしたいと思います。みなさまも、12 か月ずっと変わらず元気で、52 週ご機嫌うるわしく、365 日毎日小さな

幸せが訪れますように。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

Поздравляю вас с Новым годом! Желаю в 2021 году 12 месяцев крепкого здоровья, 53 недели прекрасного настроения, 365 дней маленького счастья!



早く元の生活に戻りますように

中林 英子 (JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

昨年からコロナウイルスの影響で私たちの生活は変わってしまいました。海外旅行をメインに取り扱っている JIC も、非常に大きな影響を受けています。

ちょうど 1 年前の今頃、2020 年はオリンピックの開催を控えて、日本発着の空の便が大幅に増えることが決まっていた。ロシア各都市へのフライトの増便も決まり、ロシアへの旅行者も大幅に増えることが予想されていました。

その後、1 月下旬にコロナウイルスのニュースが入ってきました。それでもすぐに収まるだろうと比較的楽観的でした。それが収まる様子もなく 3 月下旬にはロシアビザの申請が停止になりました。当初の停止期間は 5 月 1 日までとなっていました。実際に再開されたのは 11 月になってからでした。現地の情報が入るたびに、まだ安心できる状況にはないと感じさせられます。それでも世界ではワクチンの供給が開始され、少し光が見えてきたのではないかと思います。

このパンデミックが終わったら、すぐに旅行に行きたい、2021 年はバカンスを 2 回取りたいと思っている人もいるのではないのでしょうか。私もずっと前から予定していたドバイ旅行をキャンセルしなければなりません。航空会社の経営状態の悪化からか、いくつかの航空会社は航空会社側の決定で欠航した場合でも現金の返金ではなく、航空券クーポンとしての返金をしていました。いつ収束するのか、

いつ海外に行けるかわからない、海外に行けるようになって、その時自分が行きたいかどうかかわからないので、現金で戻してほしいというのが本音です。ただ、私のチケットは払い戻し不可のチケットで、この状況下ではクーポンでも仕方がないのかと思いながらキャンセルの手続きを開始しました。ところが私の場合は返金が可能だったようで、親切なスタッフが返金手続きの仕方を詳しく教えてくれました。キャンセル・返金が相次いでいるため手続きに 3 カ月ほどかかりますと言われましたが、無事 3 か月後に返金されました。今回の旅行は行けなくなってしまいましたが、安心して旅行ができるようになったら、必ず予約するねという気持ちでいっぱいです。

私ども JIC も待っていてくださるお客様に、より良いサービスができるよう努めたいと思っております。今後とも JIC 旅行センターをよろしくお願いいたします。

「ロシア人、実は陽気で元気」

山下 篤美 (JIC ペテルブルグ)

あけましておめでとうございます。今年が皆様にとって、健やかな一年でありますよう、心よりお祈りしています。



さて、この原稿を書いているのは、実際は 2020 年の年末。例年なら、街中の華やかなイルミネーションとともに、ペテルブルグも忘年会シーズンでにぎやかな笑い声があちこちに響いている頃です。しかし、年末年始、飲食店の営業に制限がかかっ

てしまい、残念ながら忘年会の実施は難しいよう。知合いの会社の中には「本来なら忘年会に回していた予算を、社員へのプレゼントやボーナスにする」といった景気のいい会社もあるようですが、実際は経営を維持するのが厳しいところも決して少なくはないでしょう。

けれども、そういう状況にあってもへこたれないのがロシア人。友人とのパーティーを充実させるために、子供時代に戻って（幼稚園では学芸会のような「もみの木」を囲んだパーティーが開かれて仮装をすることが多い）、ネットで着ぐる

みを注文する予定とか、営業できないソバーを経営している友人を助けるために内輪で豪華なパーティーをすとか…。楽しむことを決してあきらめていないのを感じます。

それは、社会体制の変化に振り回され、貨幣価値が急に変わったり、これまでだって十分に不安定だった社会を生き抜いてきたロシア人の逞しさであり、生き様なのかもしれません。先の見えないことに対する耐性への強さは、私も見習うべきだということをこのコロナ禍で意識したのが 2020 年でした。

今年は、そこからさらに変革を!!!「回復」というより「飛躍」くらいの気持ちでいこうと思っています。
(写真はカザン聖堂ともみの木)

「回復」

菊地 リューバ (JIC 東京)

2020 年はいつもと違う年でした。世界中がひどい出来事に巻き込まれてしまいました。人々はみんな戦争のようだと感じたと思います。世界中の人が一気に「自由」を失い、恐怖に抱かれてしまい、生活習慣が変わってしまいました。会いたくても簡単に会えなくなってしまった年です。みんなで安心感を持って平和な世界で生きていたいです。

「どういうふうに新年を迎えるかが、その一年になる」というロシアのことわざがあります。2020 年の正月の夜、私は一人で人のいない新宿に到着して、熊野神社に初詣しました。今年、このことわざを信じるようになりました。

新型コロナウイルスだけでなく、2020 年は個人的に私にとっても大きな変化の年でした。

どんなに会いたくても、じいちゃんと夢でしか会えなくなってしまいました。小さい時、じいちゃんと一緒に星空を見ました。じいちゃんは海軍士官でした。バルコニーで大きな樽の上に座りながら、星座の話聞いたことがはっきりと記憶に残っています。じいちゃんからチェスやバドミントンのルールを教えてもらい、一緒によく遊びました。ただ、どんなゲームをしても、いつも負けて悔しかった。中学生の時、文法を教えてくれた。宿題も手伝ってくれた。高校生の時、私が飼っていたペットを預かってくれた。いろいろなことを思い出します。また会いたくて、また話したくて、寂しさが募ります。

今年は愛する息子とも別れなければなりません。出来る限り考えないようにしていますが、息子と別居することはとても精神的に怖いのです。高いところからプールに飛び込むようです。後ろにみんなが並んで待ってるから、前に進むしかありませんが、下を見たら高すぎて息が止まってしまう。

2021 年は涙より笑顔の方が多くなるように願っています。

ます。

旅行業界が早めに回復するようにお祈りいたします。

マスクなし、ソーシャルディスタンスなしの世界に早く戻れるように、心からお祈りします。

皆さん、免疫力を上げましょう。そして、前向きに進んでいきましょう。「明日」はどうなるか誰にもわかりませんが、みんなの力を合わせて、不安があっても怖がらず、前向きに進んでいきましょう。冬が終わったら待ち遠しい春が訪れるように、世界が回復されるに違いありません。



焦らずゆっくりと!

稲塚 俊介(JIC 東京)

明けましておめでとうございます。

昨年は混乱の年でしたがみなさんはどう過ごされたでしょうか。コロナが流行りだした当初、世間は「年末には落ち着くだろう」という期待を持っていましたが、蓋を開けてみればワクチンが開発されても尚、終息の目途もたっていない状態です。誰もが早い回復を目指していますが、急激に人の移動が再開されればまた逆戻りするのは間違いありません。逸る気持ちを抑えて、ゆっくり回復していくことが何よりの近道でしょう。

私は2020年8月末に両側鼠経ヘルニアの手術をしました。深刻なものではないのでオペ翌日には歩いて傷を治すようにと医師から説明を受けました。スポーツを長年やってきた私からすると、多少の痛みは我慢できるのでひたすら病院内を歩き続けました。それでも同じフロアばかりだと飽きてくるので、病室のある4階から1階のコンビニまで階段で往復しました。これにはさすがの担当医もビックリしてあまり無理しすぎないようにと苦笑い。

しかし、その忠告も少し遅かったようです。運動を終えて病室で休んでいるとみるみる悪寒がしてきました。そして熱が39度まで上がってしまい、その日は寝苦しくてなかなか

眠りにつけませんでした。それでもしばらくすると寝落ちし、起きたころにはすっかり熱も下がっていました。先生曰く、術後にはりきって運動しすぎたのが熱発の原因のようでした。

話が逸れてしまったように感じるかと思いますが、コロナとこの私の体験には共通点があります。それは「自分にあったペースで回復しよう」ということです。人間であれば苦しい状況にいと、いち早く抜け出したいと思いますが、それが常に最良の結果をもたらすとは限りません。適切な方法と時期を見極めて行動することが何より大切です。

弊社JICもコロナの影響を大きく受けている企業の一つですが、このような事態だからこそできることもあります。各自が読書やセミナーを通じて見識を深め、ロシア旅行が再開したときにお客様に喜んでいただけるようなプランを提供できるように準備しているところです。それまでみんなで頑張っていきましょう！



写真は自宅で手作りしたピロシキ。生地から作ってお好みの具材を調理すればオリジナルのピロシキができあがりますので時間があるときに是非！

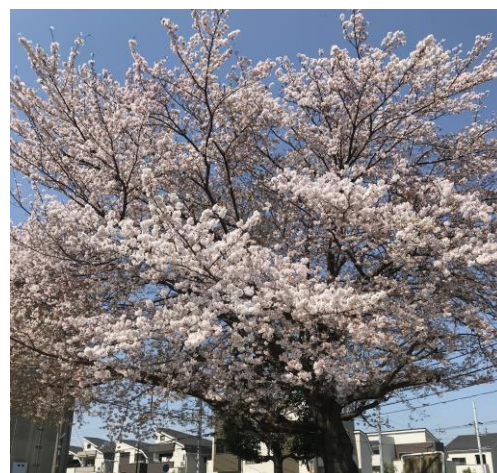
鉄棒

柳沢 昭子(JIC 東京)

あけましておめでとうございます。

2020 年はみなさまにとって、どんな一年でしたでしょうか。私にとっては、あまり目の前の状況がよく理解できないまま、あっという間に過ぎ去ってしまった一年でした。

そんな中、昨年やってみたことがあります。鉄棒です。普通の公園の普通の鉄棒です。子供が上手に楽しそうにやっているのを見て、私もやってみたのですが、これが思っていた以上に難しいのです。恐る恐る前回りをしてみると、頭を下げて足が空に向かった瞬間、天地がひっくり返っていく目の前の光景に驚き、でもその光景がどうなっているとかよくわからないままに、どしん。しっかりと立つことができずに、しゃがんだような格好の着地になってしまいました。逆上がりはまるで無理でした。こんなに難しいことを世の中の子供



たちは普通にできてしまうのかと、感心してしまいます。しかも楽しそうにできるなんて、と尊敬してしまいます。私にとって鉄棒は苦行でしかありませんで

した。一回まわっただけなのに受けたダメージは相当で、全身あちこち痛くて、目が回り気持ち悪くなりました(笑)。公園に行ったときには、いまま時々鉄棒に挑戦しています。寒い日の鉄棒は冷たくて、触るだけでも気合いが必要です。せめてきれいな着地ができるようになりたいなと思っていますが、なかなか上達しません。でも、2回3回と続けられるようにはなり、体がすこし鉄棒に慣れてきたのかなと思うと、ほかにも新しいことを始められるかもと不思議と自信にもなってきました。

その小さな自信のおかげで、私はその日の家事や面倒なことをいつもよりもすこしだけ気分良くこなせるようになります。小さな自信を探しながら、今年、2021 年はいい年だった！とすっきりと言える一年にしたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「教習所」

竹村 貢(JIC 東京)

昨年は政府から緊急事態宣言が出て、会社は4月から休業となり、思ってもなかった自分の時間が出来てしまいました。

国からは特別定額給付金の10万円が入り、そのまま生活費に充てるのはもったいないと思い、何か資格をと考えた時、教習所に通えば確実に取れる大型免許でも挑戦してみようかとふと近所の教習所に申込に行きました。

教習所にはいろんな教官がいて、『大型なんてさあ、左側のミラー見て運転してれば、右側は感覚でわかるんだからあ』と言う教官がいれば、左側を気にかけると『右側もちゃんと見なきゃ』って言う教官もいたり、『ウィンカー出すタイミングが遅〜い』と言われて早めに出すようにしたら、『早〜い』と言われる始末。こんな教習早く終わらないかなあと思いつつ通ってました。

そんな中で 1 番感じの悪かった教官といえば、褒めずに嫌味ばかり言う教官です。隘路という、交差点や駐車場、狭い場所への進入を練習する課題があり、トラックがちょうど収まるオレンジの枠にぴったり収めなければいけないのですが、なかなか一回でその枠の中に収めるのは難しいのです。何度かその教習があり、運よく一発でその枠に納めることができるとほとんどの教官は褒めてくれるのですが、中には「たまたま出来た」という風に嫌味っぽく言う教官がいて、感じが悪いなあと思いつつ、心の中ではもうこの教官（コイツ）に二度と当たらないようにと願っていました。

仮免取得後に、またその教官に当たった時は、運転がぎこちなかったせいか、『君、トラック運転した事ある?』とまた嫌味を言われました。大型免許の教習生のほとんどは運送会社や建設関係の人で、トラックぐらいは運転している人がほとんどで、私のように普通車しか乗ったことがない人間が大型免許を取りに来るのは少ないようです。

その教官に教習中に何で免許取るの? って聞かれて、コロナで時間があるからっていうのは言わない方がいいと思い『大きい車を運転してみたいから』と答えると、『大型免許取ってもすぐに大型なんか乗せてもらえないからね』と言われ、何だかまた意地悪く言ってるように感じました。

卒業検定は手に汗握る感じでしたが、何とか合格して、もう教習を受けなくていいと思うと、すごく解放された気分になりました。

最後に、今年の夏は、自由に旅行できるようになって、去年のような自由な時間が減って忙しくなればいいなあと思います。

我が家に訪れたコタツ生活

白井 真理奈 (JIC 東京)

休日になると屋外で過ごすことが殆どだった我が家ですが、新型コロナウイルス感染拡大により、不要不急の外出を避け、家で過ごす日々が増えるようになってきました。

夏が終わり、だんだんと肌寒くなってきた 10 月のある日のこと。「このままコロナが終息せず、これからもずっと家で過ごす時間が増えるのであれば・・・」と、より快適で暖かい

環境を求め、今までのホットカーペット生活からコタツの購入に踏み切りました。が、しかし!!! このコロナ禍、同じことを考えている人がこんなにも沢山いたのにはビックリ笑笑 「お値段以上〇〇リ♪」でおなじみの家具屋さんへコタツを物色に行くと、狙っていたモデルはすでに売り切れで、納品は 1 ヶ月待ちとのこと。じゃあ、このモデルだったら? じゃあ、このサイズだったら? と、1 日も早くコタツ生活を始めたいがためにいろいろと店員さんに確認してもらいましたが、どれも在庫状況は同じものばかり。半ばがっかりしながらも、1 番気に入った品薄モデルを注文し、納期までの 1 ヶ月間は引き続きホットカーペットでの生活を送ることになりました。そして、11 月の半ば。ついにこども達にとって生まれて初めてのコタツ生活の到来です!!!



コロナ以前を振り返れば、冬でもキャンプやスキー、モトクロスの練習と、どんなに寒くてもアウトドアや屋外での遊びをエンジョイしていたのですが、今やコロナを理由に、ぬくぬくと温かな幸せいっぱいのコタツに釘付けです^^

コタツと言えばみかん。コタツと言えば、ボードゲームやカードゲーム。冬の一家団欒のシーンを思い出させるような、昔懐かしい昭和の雰囲気が我が家に訪れました。

以前からやっていたトランプ・オセロ・チェス・ダイヤモンドゲームに加え、コタツ購入後には UNO やドンジャラも仲間入り。おまけに今話題の「鬼滅の刃」のマンガが全巻そろっている我が家では、小学 1 年生のこども達に文字を読ませる勉強がてらマンガも読み放題笑笑 みかんやポップコーンを食べながらコタツでゲームをしたりマンガを読んだり・・・コタツ生活の偉大さに驚きを隠しきれません!!! そして、「コタツが気持ちいい」と思えるのには、年齢はまったく関係ないのです。

世の中が大変貌してしまったこのコロナ禍。外出できない日々がストレスではありましたが、家族そろって過ごす温かで幸せなコタツ生活が、新しい冬の過ごし方として我が家に定着しつつあります。そして今や、「たまには麻雀やりたくない?」な〜んで、ドンジャラからのレベルアップを図るべく、麻雀購入を主人と検討中です笑笑

共感しあえる社会の「回復力」を信じて

伏田 昌義

昨年は新型コロナウイルスのパンデミックで散々な 1 年となりました。昨年だけでなく今年もまだ散々な状態は続いており、いつ終息するとも知れない不安が世界を覆っています。

国際的にも国内的にも人の往来が制限され止まってしまった状態では、旅行業はまったくお手上げです。ジェーアイシー旅行センターは最初の緊急事態宣言が出された昨年 4 月から全スタッフの「8 割休業＋2 割在宅勤務」体制に入り、経費切り詰めと雇用調整助成金で何とか凌いでできました。昨年秋には「新型コロナは 21 年末まで続くだろう」と覚悟して、それまで何としてでもスタッフの雇用を維持し生活を守るべく試行錯誤を重ねてきましたが、ここにきてさらに先行きが見通せなくなってきました。

昨年末、アメリカとイギリス、EU、そしてロシアで緊急承認され接種が始まったワクチンがどれだけ早く多くの人に行き渡り、重大な副作用なく効果をあらわすかが、2021 年の日本と世界の動向を大きく左右すると思います。

それにしてもこのコロナ禍は、私たち人間と自然とのかかわり方、社会とのかかわり方を地球規模で問い直しているようです。生物学者によると、ダニやカビ、ウイルスなどの病原体は人間よりはるかに昔からこの地球に住んでおり、それぞれの住処でひっそりと暮らしていた。時に密集して増えすぎた種で病気を起こし、結果的に宿主の数を調整し、抵抗力を持つ集団への進化を促す役割も果たしてきたと言います。人間の自然破壊によって本来の生息地を奪われた外来種の一つが新型コロナウイルスであり、熱帯雨林の大規模伐採や森林火災、外来生物の本来の生息域以外への拡散、地球温暖化なども、すべて人間活動による自然破壊に起因しています。たとえコロナに打ち勝ったとしても、開発や自然破壊を基本とする経済構造を変えない限り、繰り返して新たなウイルスが人間社会を襲うことになるでしょう。

京都大学の山際寿一学長は「新型コロナウイルスは、現代の人間社会の盲点をついている」と言います(4 月 28 日毎日新聞)。「人類は長い進化の過程を通じて、信頼できる人とのつながりを増やしてきた。脳が大きくなったのも共感力が高まったのも、音楽や言葉が生まれたのも人の輪を広げるためである。...、農業革命、工業革命、情報革命を経て現代に至ったのも、もとはと言えば多くの人とつながることが幸福への道だと信じていたからである」。感染防止のため、人と人との接触が避けられ、移動が制限される事態は、まさに「人とのつながり」を求める人間の本質的な欲求を押しつぶします。山際先生はこの分断によって社会に共感力が失われることを最も懸念すると警告を発しています。

ひところ問題になった「自粛警察」「マスク警察」と言われる現象や、コロナ感染者や医療従事者への差別は、まさに他者との

分断、共感力の衰退をあらわしています。人々との分断、国境閉鎖が続けば、他国や異文化に対する興味・共感が失われ、排外主義的な不寛容が社会に蔓延することになります。そうならないためにも、「自然との共生」「共感しあえる社会」を指針として、私たちの生活を立て直す必要があると思います。

新型コロナはまた、この国の「長期一強政権」の危機対応策が、科学的合理性に基づいた戦略のない、その場しのぎの行き当たりばったりのものであり、かつ事後にその検証と反省もない人間的誠実さを欠いたものであることを明らかにしました。240 億円をかけて配布した「アベノマスク」、感染拡大を無視した Go To トラベルへの固執、いまだに実現しない PCR 検査の大拡充、欧米に比べて遜色ない医療従事者や病床数を有し感染者数が高まるかに少ないにも関わらず「医療崩壊」寸前となっている医療資源の配分ミスと危機管理能力のなさ、などがそのことを象徴しています。政府提案の「新型コロナ特措法」改正案では、休業命令や従わない業者への罰則規定ばかりが強調されていますが、命令や罰則だけでは人は動きません。科学的な基本戦略の提示と、それに基づいた人々の共感を呼ぶ説明・説得こそが政治指導者には求められていると思います。

昨年の新年あいさつのテーマは「10 年後の私、10 年後の JIC」でした。「10 年後も JIC のスタッフたちは、日本とロシアの架け橋として相変わらず元気に、旅行、留学、文化交流の仕事を続けているでしょう」と書き、私は 3 月に会社の代表を交代すると予告しましたが、新型コロナはその後の予定をすっかり狂わせてしまいました。JIC に 10 年後が果たしてあるかどうか、今は誰にも分かりません。しかし、JIC を信頼し支えてくれるスタッフと多くの支持者の方々がいる限り、人間の「回復力」を信じ、「10 年後」を目指して、頑張り続けたいと思います。よろしく願いいたします。(JIC 国際親善交流センター副会長)

◆◆編集後記◆◆

▼今号は、恒例の JIC スタッフ新年あいさつです。お題は「回復力」(Resilience)。新型コロナで何もかもが一変した世界をどう回復させるか、何に向かって回復させるか、回復後の世界はきっとコロナ前とは違ったものになるでしょうが、すべての人が何らかの回復を求めています。▼JIC スタッフも無為はこの長い 1 年を過ごしたわけではありません。コロナ禍で会社の休業状態が続く中で、それぞれがこの時間をどう過ごし、どう未来につなげるかを模索し、たくましく生活していたことが新年あいさつから滲み出していて、読んでとても励まされます。▼このスタッフたちがいる限り、JIC は負けません。コロナが終息し、世界中の人が安心して旅行や留学を楽しむことができる日が来るまで、皆さんと一緒に頑張ります。応援してください。(F)